

こんにちは！ 室長の工藤です。

柳町通りを北に進み聖徳公園の少し手前、神外科胃腸科医院（本町3丁目）の南側の歩道に旧地名「浜町」の解説パネルがあるのをご存知でしょうか。

浜町は藩政時代に青森町が取り立てられたときに町の最も北側の街区に付された地名で、実は、この解説パネルがある位置は藩政時代の浜町ではなく、パネルの南側の街区が浜町です。つまり、パネルの解説を読みながら目を町並みの方に移すとそこが浜町になります。



「浜町」の解説パネル

さて、このパネルに「寛政5年（1793）、新町の町奉行所が「上浜町」に移転した」と記されています。町奉行所とは町の行政・司法・治安維持などを職務とした町奉行が詰める役所で、弘前藩庁から役人が派遣されました。その町奉行所が上浜町（浜町の最も西側の街区）に移転したというのがパネルの意味するところで、当時の絵図からも確認することができます。場所は、現在のワシントンホテルの北側にある駐車場の辺りです。

では、移転前とはいいますが、パネルでは「新町」とありますが、正しくは米町と大町（本町）の間、現在の善知鳥神社の東向かいにありました。これも当時の絵図で確認することができます。移転の理由は定かではありませんが、天明3年（1783）の大火で類焼しそれ以後は仮普請^{かりぶしん}の奉行所であったのを、新築移転したとする記録があります。

浜町に移転した町奉行所は、そこで御一新を迎えるかといえどどうやら違うようです。幕末期にもう一度移転します。この時の移転も大火を契機とします。青森町の九割以上の家屋が類焼し、前代未聞の大火災と称される安政6年（1859）5月の大火で奉行所も類焼したのです。移転先は「向かい側の浜手」とあるのみで場所の特定は難しいところですが、私はすぐ向かい側、それこそ解説パネルがある辺りではないかと思っています。

そして、移転の理由は海岸の取締りを強化するためだったようです。箱館が開港された後ですから、もっともな理由です。

「浜手」の奉行所は弘前藩庁の記録に記されているので、存在は歴史的事実として認めていいと思います。ただ、これを描いた絵図を、少なくとも私は目にすることがありません。また、さきの解説パネルにも「浜手」への移転について記されていません。その意味で、「浜手」の奉行所は青森市の歴史叙述ではなじみの薄い存在なのかもしれません。